資 料 No. 3

他県における市町村と県立高等学校の連携事例

島根県海士町（あまちょう）と隠岐島前（どうぜん）高等学校の取組

1 島根県海士町と隠岐島前高校について

・ **海士町**（あまちょう）：島根半島沖合約 60Km に浮かぶ隠岐諸島の島前三島のひとつ、中ノ島（面積 33.46ｋ㎡、周囲 89.1 km）にあり、人口は 2,345 人（H27.5.1 現在推計人口）。

近年は「隠岐牛」のブランド化や特殊な凍結システム導入による海産物の鮮度向上など様々な産業振興の取り組みによる雇用創出や、Ｉターン研修生制度の導入等で定住者の増加などの効果を挙げている。

・ **隠岐島前**（おきどうぜん）**高校**：海士町に立地する島根県立の普通科全日制高校。島留学として県外も含めた島外からの募集を実施している。

2 取組の背景（入学者の状況）

・ **島の過疎化→少子化も進行**

昭和 40 年代 在籍者数が 300 人超

平成９年度入学者 77 人→ 平成 20 年度 28 人 半分以下まで減少。**１学級校に。**

・ **学級数減に伴い、教員数も減少。**

１人の教員が多くの科目を担当するため、教材研究や準備、試験問題の作成等、授業以外の時間も含めた１人当たりの業務量増

大規模校とほぼ変わらない校務分掌等を、非常に少ない教員で分担

→ 現場が多忙に（高校を活性化させるために学校、教員独自で何か新しい取り組みを行うということは困難）

3 隠岐島前高校魅力化プロジェクトの発足

・ 平成 20 年３月 島前３町村の町村長、議長、教育長、中学校長、高校等による高校改革の推進母体**「隠岐島前高校の魅力化と永遠の発展の会」設置**

・ 平成 20 年度 関係機関や住民に高校の状況や島前地域における高校の存在意義を説明するとともに、学校や教育への期待や要望を聴き、地域内での魅力ある高校づくりへの意識の醸成を進めた。

島内の中学と高校の生徒･保護者･教員へのヒアリングやアンケート結果をもとに、地域内の関係者や校内での意見交換や、県･国と協議。

・ 平成 21 年２月 島前高校の２学級化を目指した**隠岐島前高校魅力化構想を策定し、同構想に基づき、「隠岐島前高校魅力化プロジェクト」スタート。**

４　プロジェクトの考え方（行動規範）

・　**存続ではなく魅力化**

子どもが「行きたい」、親が「行かせたい」、地域住民が「この学校を活かしていきたい」と思うような『魅力』ある高校づくりを目指す。存続の危機にあるような学校を子どもも親も選択しない。

・　**主体性**　「批判者」⇒「当事者」

愚痴や文句、批難ではなく、自分たち事だという当事者意識を持って知恵や提案を出し、問題意識を持った者が率先して動き、働きかける。

・　**三方よし**　「溝・壁」⇒「連携・協働」

「学校×地域×家庭」「西ノ島×海士×知夫」「町村×県×国」などの壁や溝を乗り越え、多様な主体が連携・協働し、皆にとって良い取り組みを目指す。

５　プロジェクトの取組

(1)　地域の未来をつくる人材の育成

○　高校の存在意義

地域の医療や福祉、教育、文化の担い手とともに、地域でコトを起こし、地域に新たななりわいや事業、産業を創り出していける **地域起業家精神を持った「地域のつくり手の育成」**だと再定義。

⇒　**人の自給自足**

「仕事がないから帰れない」ではなく、「仕事をつくりに帰りたい」へ

※　高校卒業時に島へ残るよう無理に押し留めることは、生徒たちの可能性の開花を阻害するため、行わない。

(2)　地域に根ざしたキャリア教育の導入（地域創造コースでの学び）

○　地域創造コースの新設

学校設定科目として２年次**「地域学」**と３年次**「地域地球学」**を設置。

島前地域そのものを教材にして、生徒それぞれの興味に応じてプロジェクトチームを組み、地域内外の優れたエキスパートの協力を得ながら地域の魅力や課題を探究し、その解決策を立案し、実際に地域で実践し、評価・検証・改善を行っていく授業を実施

【コンセプト】

「島全体が学校」「地域の人も先生」「地域づくりを通して自分づくりを行う」

⇒　実践過程を通してコミュニケーション能力や課題発見解決力などを身につけるとともに、自分自身と地域や社会のつながりを学んでいく。

(3) 一人ひとりの力を伸ばす教育環境の整備

○ 学校地域連携型公立塾「隠岐國学習センター」設立

学習センターでは**自立学習や個別指導、少人数授業**に加え、学力の基礎となる学習意欲や目的意識を醸成する特色ある**キャリア教育「夢ゼミ」**を週 1 回実施。

夢ゼミでは、島内外の大人も巻き込んだゼミ形式で、各自の興味や問題意識から生まれた題材を多様な人と議論し、多角的な視点と知見を身につけながら、課題解決に向けて取り組んでいる。

○ 特別進学コースの開設

今まで弱みとされてきた「小規模」ということを、一人ひとりに手厚い指導が可能な少人数教育という強みと捉え、個別指導や少人数指導で国公立大学や難関大学への進学を目指すコースとして開設。学習センターとも緊密に連携。

⇒ 生徒一人ひとりの力を伸ばし、夢に向けた進路の実現を目指す。

(4) 全国から多彩な生徒を募集する島留学

ア 島留学の経緯と目的

島内の中学生やその保護者へのヒアリング・アンケート結果

「島前高校には**刺激や競争がない**」「**多様な価値観との出逢いがない**」「**新しい人間関係をつくる機会がない**」といった声。

→ 学力やチャレンジ精神が高い子どもほど地域外の高校へ進学を希望する傾向

【対策】

全国から意欲・能力の高い入学生を受け入れる「島留学」をスタート。

イ 実施上の課題と対応

・ 親の意向で入学してきた生徒や、学習意欲や目的意識が希薄な生徒、中学校の頃から不登校だった生徒等、生活に馴染めず途中で転学する事例

⇒ ミスマッチが起きないように、入学希望の中学生やその保護者との事前のコミュニケーションを徹底

・ 地元生、島留学生ともに異なる文化に触れ、新たな人間関係を構築していく中で、地元生徒と島留学生間の葛藤や溝、ぶつかり合いは必ず発生

⇒ ぶつかり合いをチャンスと捉え、乗り越えるための知識や技能、態度を指導することで、それぞれの良さや価値への気づきにつなげる。

島留学の真価　多文化理解、多文化共生、多文化協働へ

ウ 島留学生と地域をつなぐ仕組み

・ 島外生徒には地域住民が「島親」に

島親の役割

地域での学び(祭り、地域行事、農作業等)に誘う案内人

相談役として生徒の生活や人間関係の相談を受ける等多様な交流。

⇒ 島外生や保護者に安心感が生まれるとともに、島親にとっても楽しみや張り合いをもたらし、再び学校や教育に関わるきっかけに。

(5) **部活動の魅力化**

遠征費の補助や、外部指導者の活用を進め、部活動を強化。

総合型の部をつくり、島ならではの海を活かした活動や文化系の活動も可能に。

長期休暇中は島外からの部活動やスポーツ合宿も誘致し、島外に出なくても合同練習や試合を可能に。

6 取組の成果

県外からの島留学による入学者、移住者が増えたことに伴い、隠岐島前高校の募集学級数は、**平成 24 年度から 1 学級増の 2 学級**となっている。現在も**県外から 20 名程度が入学**している。

また、地域創造コースでの取組等も評価され、小規模校としては異例の**スーパーグローバルハイスクールに指定**された(平成 27 年度～)。

※ スーパーグローバルハイスクール

高等学校等におけるグローバル・リーダー育成に資する教育を通して、生徒の社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、もって、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成を図る高校。文部科学省が指定。

【参考】 本県における市町村の県立高校に対する支援の事例

主な分類	支援の内容
通学	通学費補助 寮費補助 通学タクシー支援
給食	希望者への給食提供 (有償、無償、副食のみ等パターンあり)
学力向上	課外授業の実施 模試受験費用への補助
部活動	東北大会等への参加費支援 外部指導者招聘
その他	海外派遣事業実施